



**平成24年12月期 第3四半期
決算説明資料
(2012年度)**

2012年10月31日

昭和シェル石油株式会社

注意事項

この資料には、当社グループ(当社及び連結子会社)の将来についての計画や戦略、業績に関する予想、見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、本資料の発表日現在における情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、経済情勢や市場動向、並びに為替レートの変動等の要因により記載の予想数値とは異なる結果となる可能性がありますので、予めご了承下さい。

決算ハイライト(1-9月累計)

■ 原油価格と為替レート

		2011年度 実績	2011年度 1-9月実績	2012年度 1-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	106.2	109.6
為替レート	(¥/USD)	79.8	80.6	79.4
	(¥/EUR)	111.1	113.4	101.7

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2011年度 1-9月実績	2012年度 1-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	2,077,636	1,922,004	-155,632	-7.5%
営業利益	63,589	-291	-63,880	-
営業外損益	1,791	-2,140	-3,931	-
経常利益	65,380	-2,431	-67,812	-
※在庫影響	27,895	-4,991	-32,887	-
※CCSベース経常利益	37,484	2,559	-34,924	-93.2%
特別損益	3,003	-659	-3,663	-
当期純利益	32,514	-9,098	-41,613	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報

■ 平成24年度 1-9月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	1,867,758	47,425	6,820	-	1,922,004
営業利益	14,114	-15,631	1,240	-15	-291

■ 平成23年度 1-9月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	2,032,037	38,244	7,354	-	2,077,636
営業利益	81,734	-19,601	1,487	-30	63,589

- ・石油事業： 揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業： 太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他： 不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

収益状況(1-9月)

- 平成24年第3四半期連結累計業績は、売上高1兆9,220億円(前年同期比7.5%の減収)、経常利益▲24億円(同678億円の減益)となりました。また、たな卸資産評価の影響を除く実質経常利益(CCSベース経常利益)は25億円(同349億円の減益)となりました。
- 石油事業
 - ✓売上高1兆8,677億円(前年同期比8.1%の減収)、営業利益141億円(同676億円の減益)となりました。
 - ✓前年同期と比べ、特に上半期(1-6月)の国内石油製品マージンが低下し、CCSベースの営業利益も、前年同期比で減益となりました。
- エネルギーソリューション事業
 - ✓売上高474億円(前年同期比24.0%の増収)、営業利益▲156億円(同39億円の損失減)となりました。
 - ✓エネルギーソリューション事業の中核である太陽電池事業については、厳しい事業環境が継続していますが、日本国内販売強化、製品生産効率の改善やコスト削減を進め、前年同期比で営業損失は減少しています。
 - ✓電力事業については、堅調な需要に支えられ、事業収益は安定的に推移しています。

事業概況(7-9月)

■ 石油事業

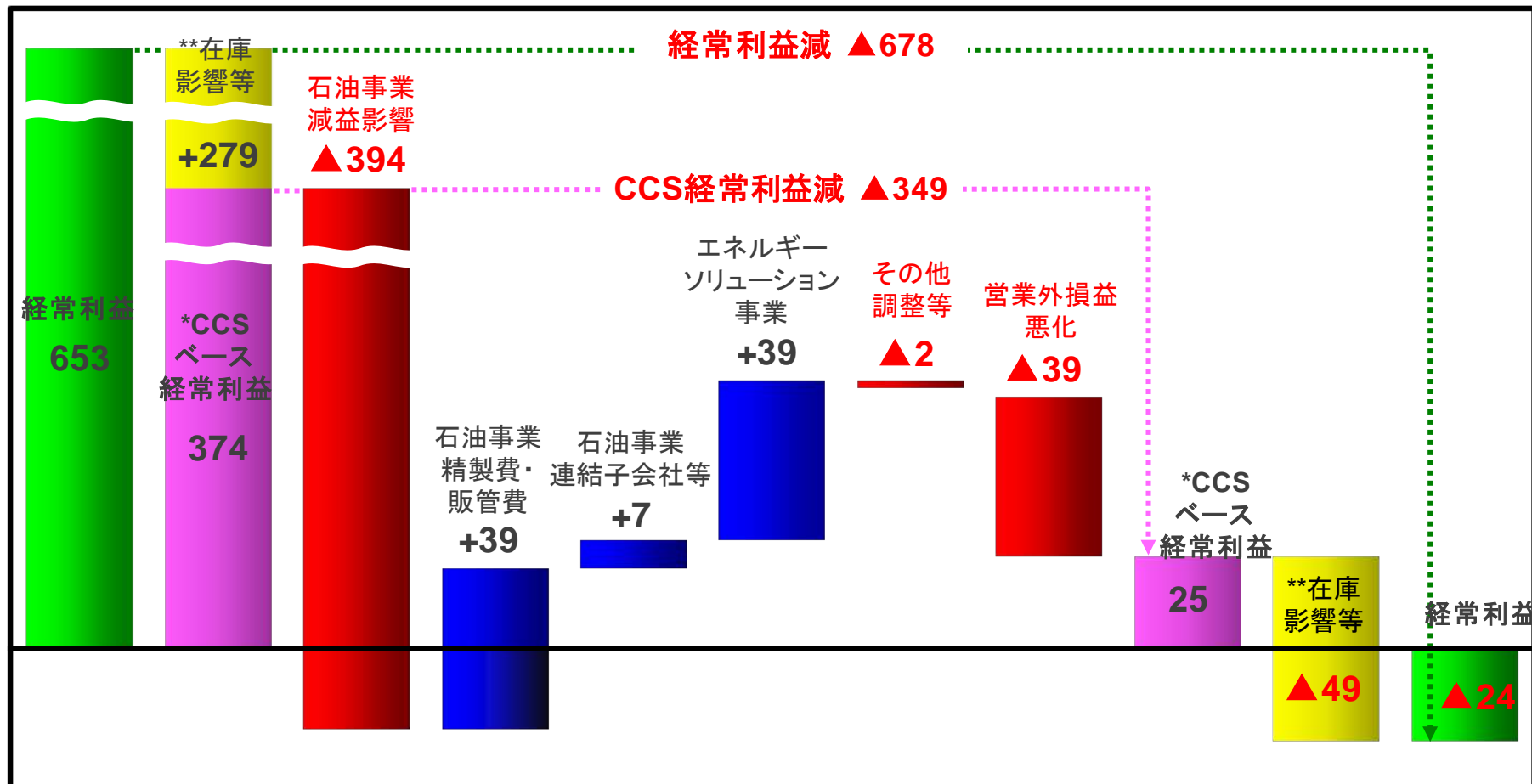
- ✓国内販売数量は全油種合計で前年同期を上回りました。特に軽油などの中間留分は大きく販売拡大しました。国内需給バランスの調整弁として実施している製品輸出については、昨年9月の扇町工場閉鎖に伴い当社需給バランスが大幅に改善したことにより、数量は減少しました。
- ✓夏の国内ガソリン需要が堅調であったこと、海外市況も堅調に推移したこと等により、第3四半期における国内石油製品マージンは総じて第2四半期から大幅に改善しました。

■ エネルギーソリューション事業(太陽電池事業)

- ✓主力の宮崎第3工場(国富工場)は、販売量の進捗に合わせて生産を行いました。また製品出力向上を主眼とした生産プロセス改善についても予定通り実施しました。
- ✓販売については、再生可能エネルギー全量買い取り制度の導入によって需要の増大が見込まれる国内市場での販売強化に取り組みました。当該制度の詳細決定が当初見通しよりも遅れたことにより、顧客の太陽光発電設備設置の着工遅れが発生する傾向にありますが、本年第4四半期以降、来年度に出荷が見込まれるものも含めて当社製品に対する引き合いは着実に高まっています。
- ✓パネル価格市況は下降傾向にありますが、下落速度は前年比で鈍化傾向にあります。依然厳しい競争環境ではありますが、引き続き原材料調達費などのコスト削減を進めました。

要因分析(1-9月)

(単位:億円)



2011年

2012年

* CCS: Current Cost of Supply (在庫評価の影響を除いたもの)
 ** 「在庫影響等」には、たな卸資産の簿価切下げによる影響を含む。

原油処理実績と燃料油販売数量実績(1-9月累計)

■ 原油処理実績と稼働率

		2011年度 実績	2011年度 1-9月実績	2012年度 1-9月実績
原油処理実績	(千KL)	26,212	20,444	15,302
稼働率	(%)	93.2%	92.2%	88.9%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2011年度 1-9月実績	2012年度 1-9月実績	前年同期比
揮発油	7,110	6,700	- 5.8%
ジェット燃料	1,544	1,658	+ 7.4%
灯油	1,911	1,836	- 3.9%
軽油	3,682	3,713	+ 0.9%
A重油	1,168	1,181	+ 1.1%
C重油	1,278	1,468	+ 14.9%
その他	3,140	2,949	- 6.1%
国内販売合計	19,831	19,505	- 1.6%
輸出	2,977	396	- 86.7%
総合計	22,809	19,901	- 12.7%

平成24年12月期連結業績予想

■ 原油価格と為替レートの前提

		2011年度 実績	2012年度 予想
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	108
為替レート	(¥/USD)	79.8	80
	(¥/EUR)	111.1	102

■ 連結業績予想

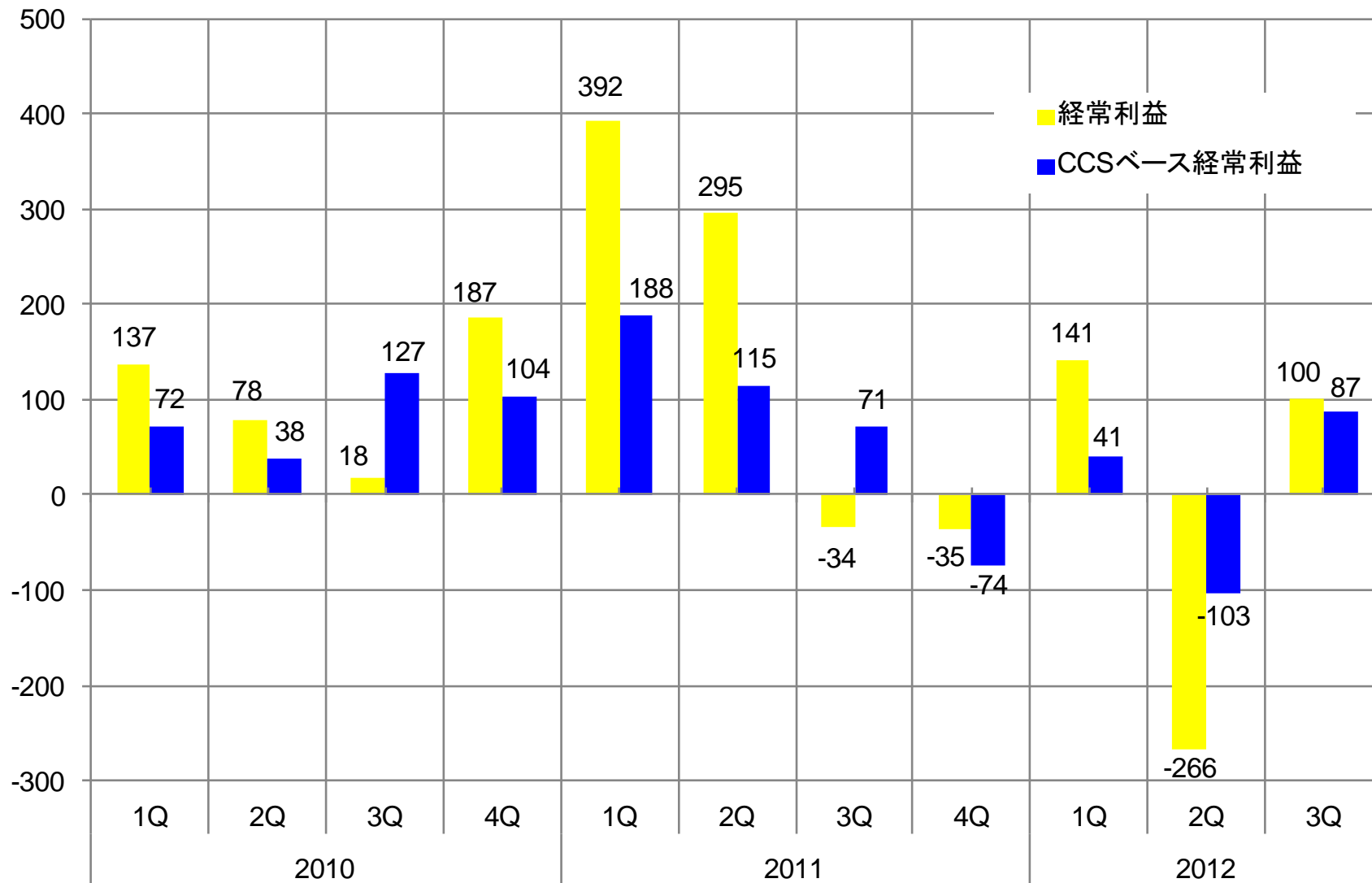
(百万円)	2011年度 実績	2012年度 予想
売上高	2,771,418	2,620,000
営業利益	60,288	8,000
経常利益	61,807	5,000
※在庫影響	31,787	-5,000
※CCSベース経常利益	30,020	10,000
当期純利益	23,110	-4,000

※7月31日に発表した業績予想は変更しておりません。

参考データ集

四半期別 経常利益の推移

単位:億円



決算ハイライト(7-9月)

■ 原油価格と為替レート

		2011年度 実績	2011年度 7-9月実績	2012年度 7-9月実績
ドバイ原油価格	(USD/バレル)	106.3	107.1	106.1
為替レート	(¥/USD)	79.8	77.9	78.6
	(¥/EUR)	111.1	110.2	98.3

■ 連結損益計算書ハイライト

(百万円)	2011年度 7-9月実績	2012年度 7-9月実績	増減	前年同期比(%)
売上高	696,700	611,116	-85,584	-12.3%
営業利益	-4,052	10,583	14,636	-
営業外損益	614	-514	-1,128	-
経常利益	-3,438	10,069	13,507	-
※在庫影響	-10,596	1,295	11,891	-
※CCSベース経常利益	7,157	8,774	1,616	+22.6%
特別損益	202	-1,769	-1,972	-
当期純利益	-4,729	3,492	8,221	-

【注】カレント・コスト・オブ・サプライ(CCS)ベースの収益: たな卸資産の評価の影響を除いた原価を用いて算出する収益

セグメント情報

■ 平成24年度 7-9月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	590,887	18,008	2,220	-	611,116
営業利益	13,644	-3,589	518	10	10,583

■ 平成23年度 7-9月期

(百万円)	石油事業	エネルギー ソリューション事業	その他	調整額	合計
売上高	676,785	17,330	2,585	-	696,700
営業利益	4,161	-8,790	598	-22	-4,052

- ・石油事業：揮発油、ナフサ、灯油、軽油、重油、潤滑油、LPG、アスファルト、化成品等石油製品等の製造・販売
- ・エネルギーソリューション事業：太陽電池モジュールの製造・販売及び電力の卸供給
- ・その他：不動産、建設工事、自動車用品の販売及びリース業等

原油処理実績と販売数量実績(7-9月)

■ 原油処理実績と稼働率

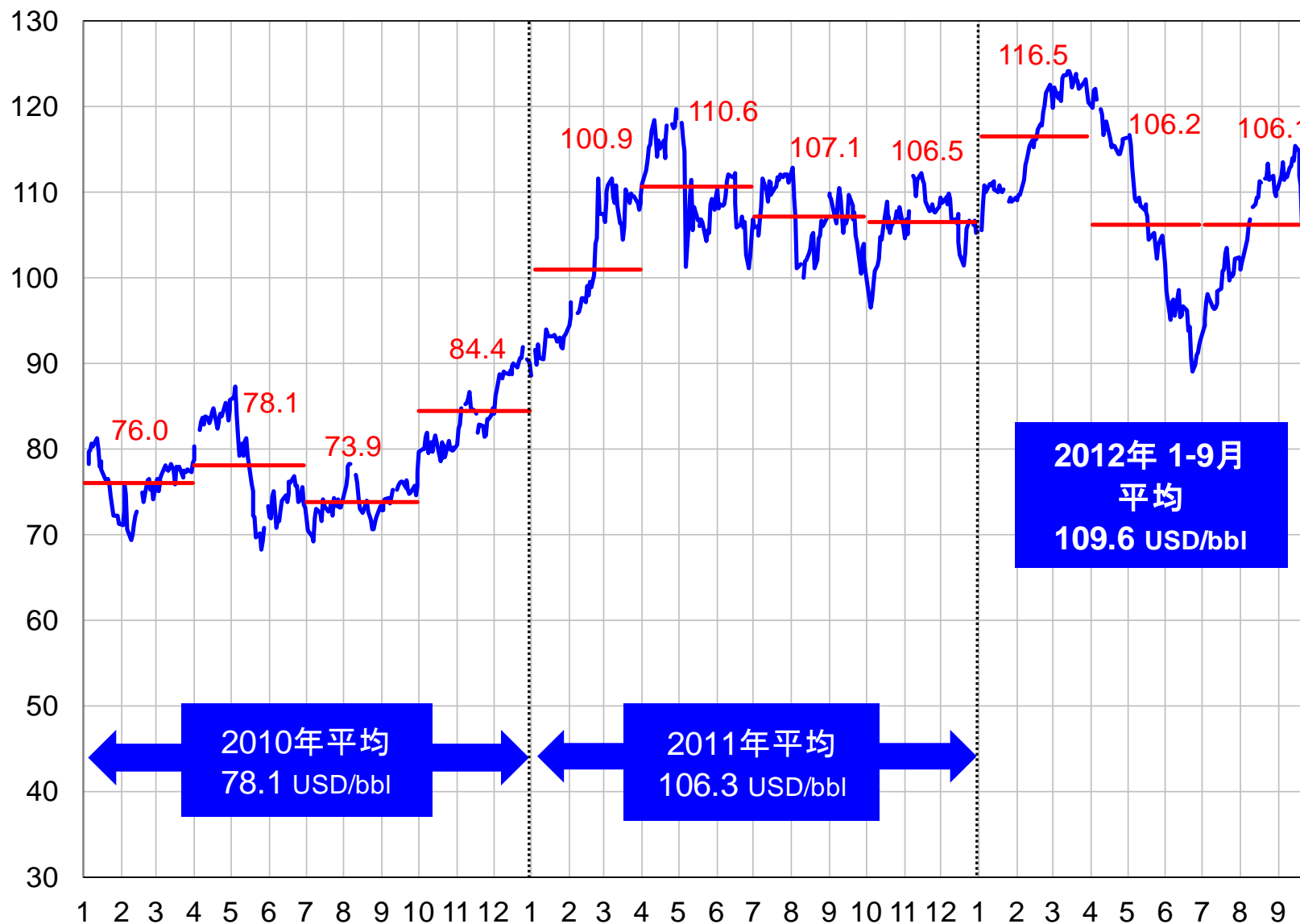
		2011年度 実績	2011年度 7-9月実績	2012年度 7-9月実績
原油処理実績	(千KL)	26,212	6,634	4,960
稼働率	(%)	93.2%	90.4%	85.9%

■ 製品別販売数量

(千KL)	2011年度 7-9月実績	2012年度 7-9月実績	前年同期比
揮発油	2,595	2,432	- 6.3%
ジェット燃料	544	555	+ 2.0%
灯油	242	299	+ 23.7%
軽油	1,192	1,323	+ 11.0%
A重油	314	339	+ 8.3%
C重油	472	498	+ 5.5%
その他	1,001	960	- 4.1%
国内販売合計	6,358	6,406	+ 0.8%
輸出	1,090	135	- 87.6%
総合計	7,447	6,541	- 12.2%

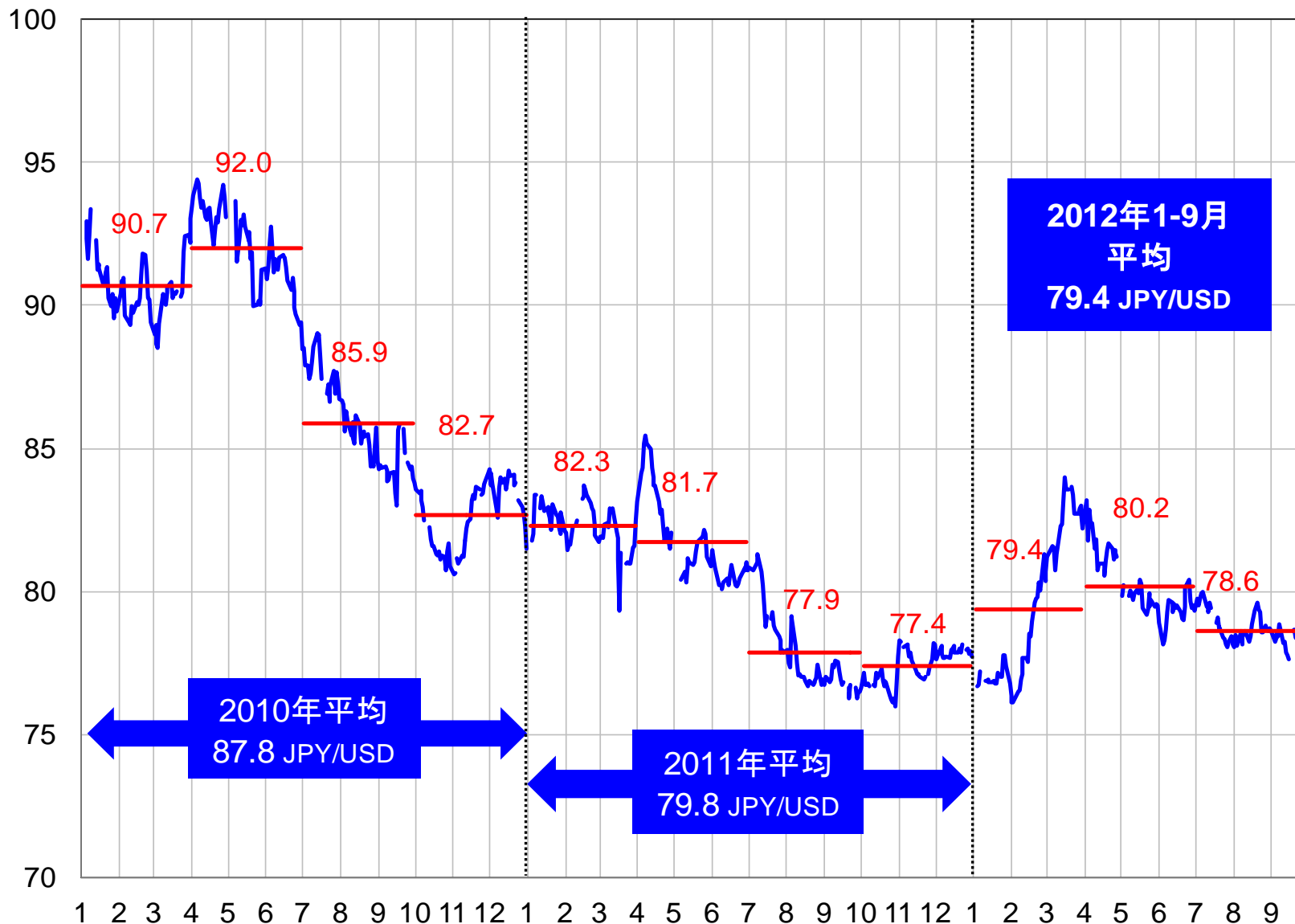
ドバイ原油価格の推移

(USD/bbl)



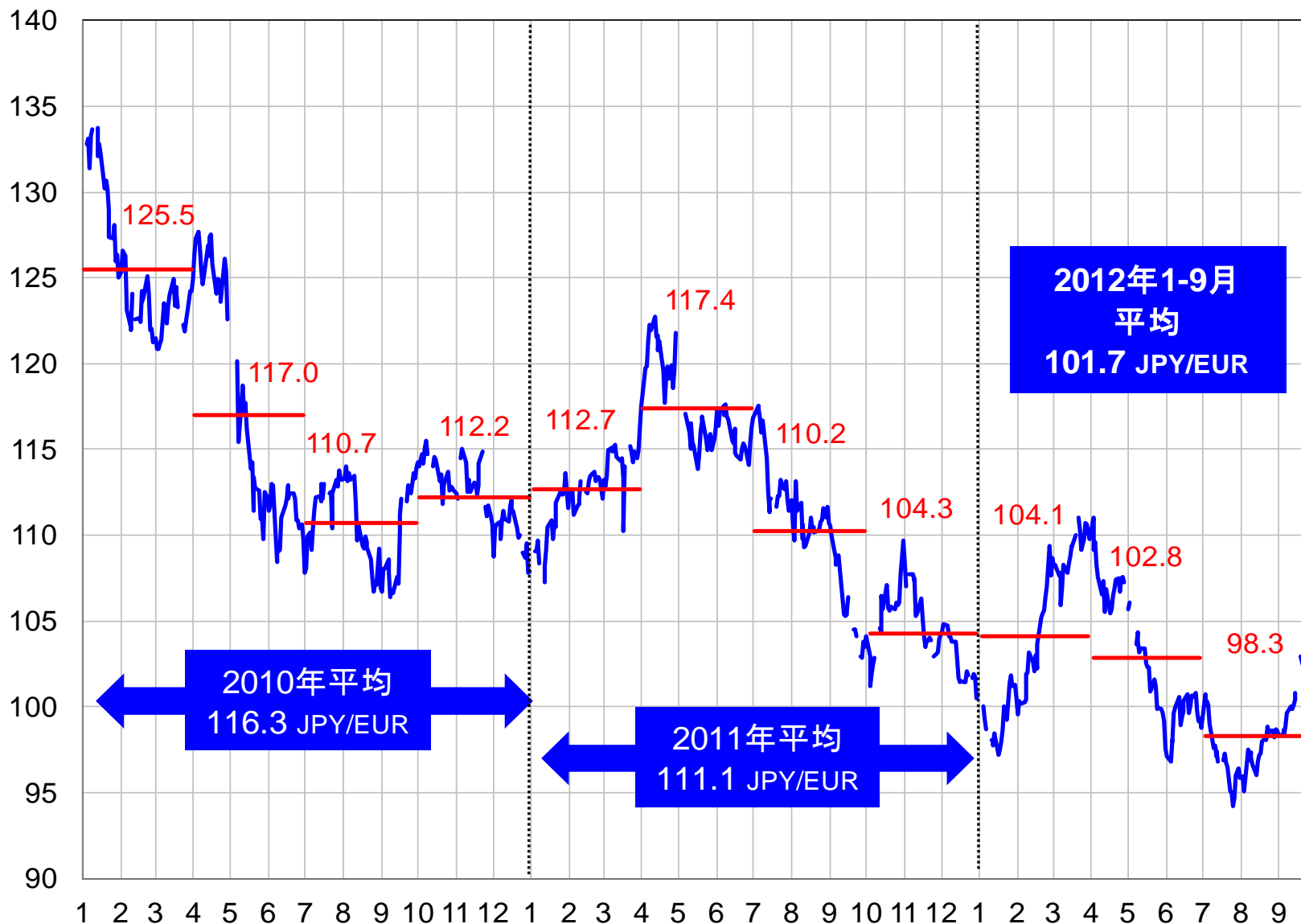
為替レートの推移(円/アメリカドル 仲値)

(JPY/USD)



為替レートの推移(円/ユーロ 仲値)

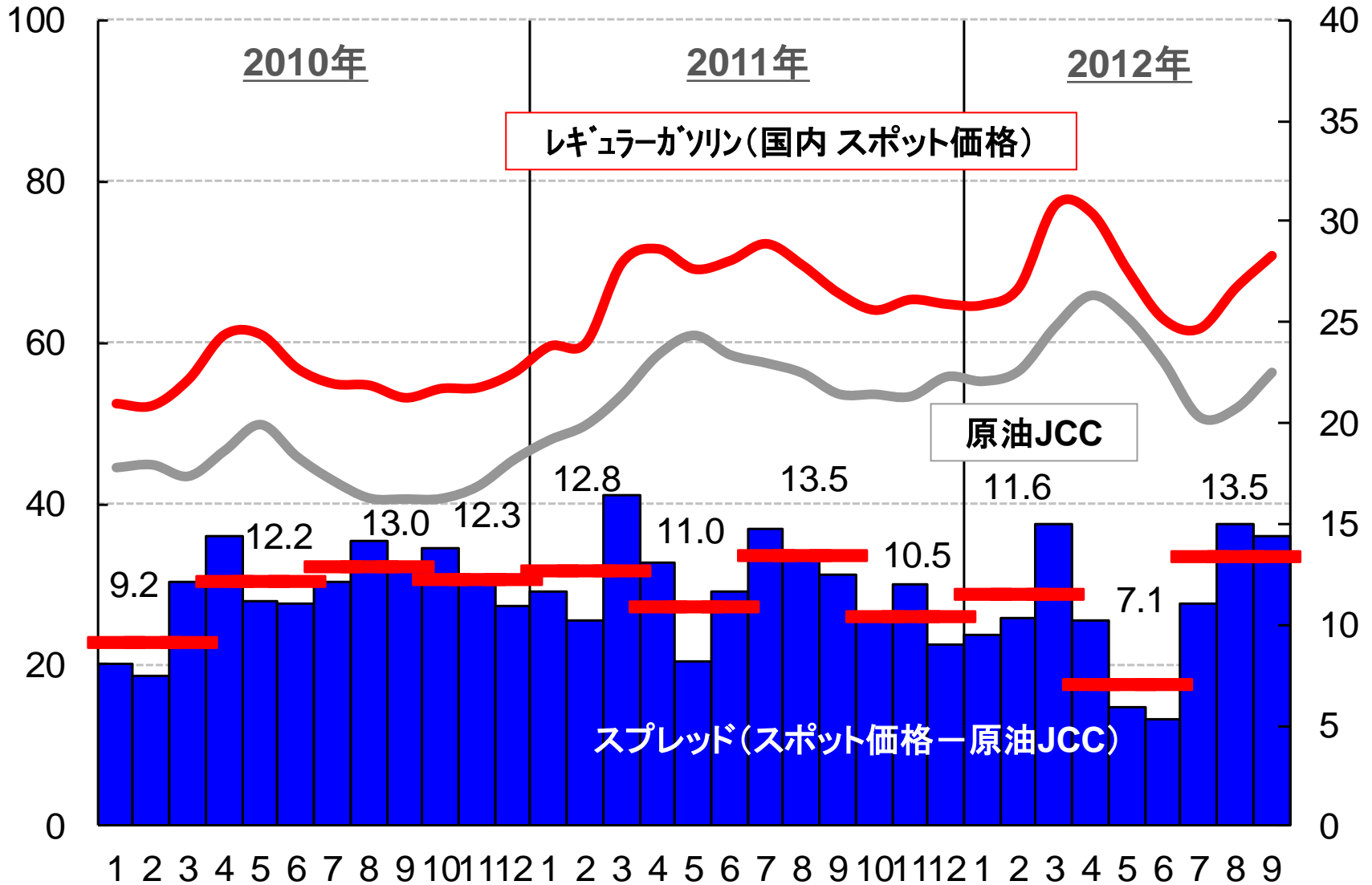
(JPY/EUR)



国内マーケットの状況①(ガソリン)

原油・製品価格 ¥/L

スプレッド ¥/L

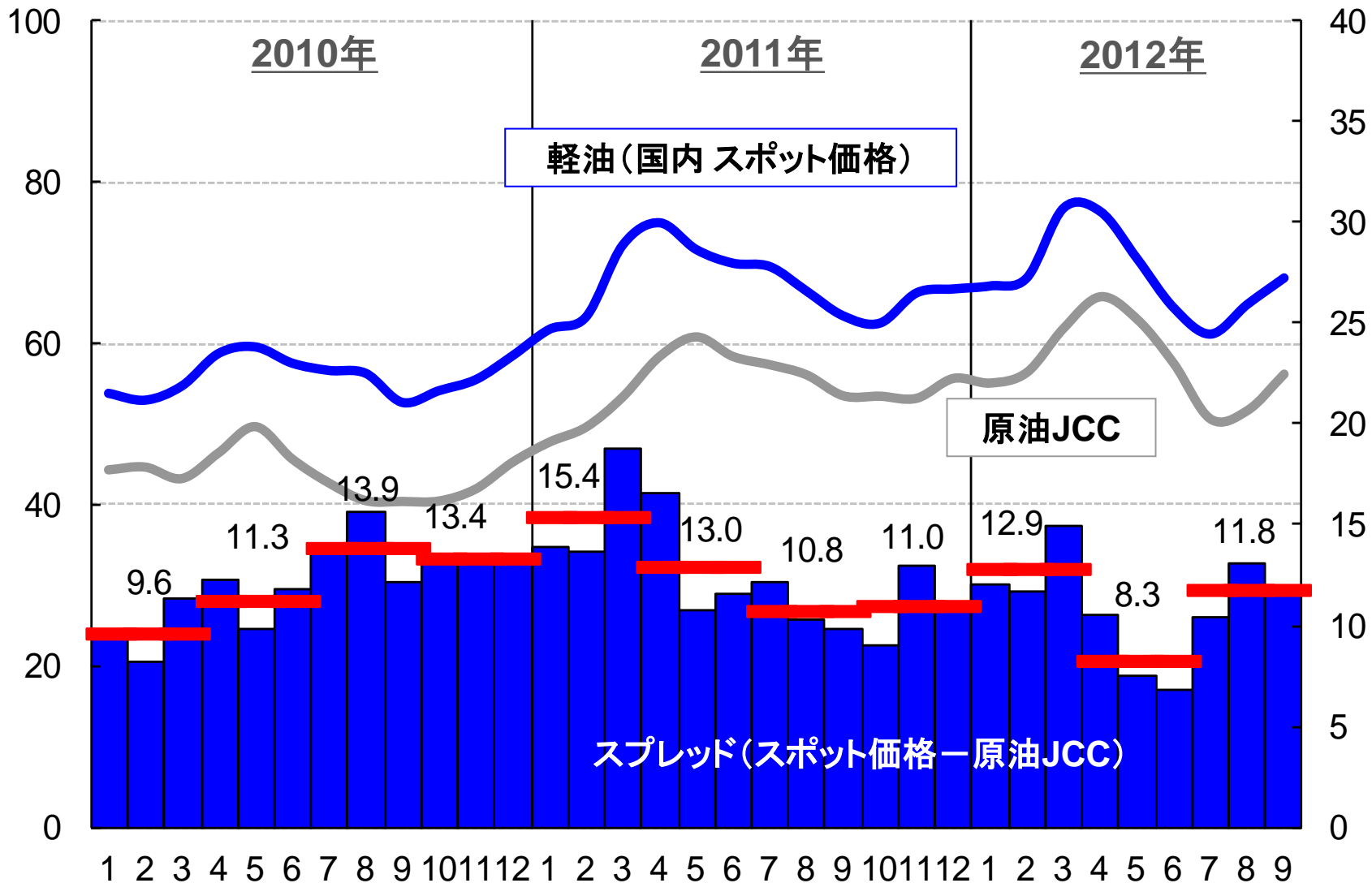


注記) 原油JCC: Japan Crude Cocktail、日本国内に輸入される原油の月間加重平均入着(CIF)価格

国内マーケットの状況②(軽油)

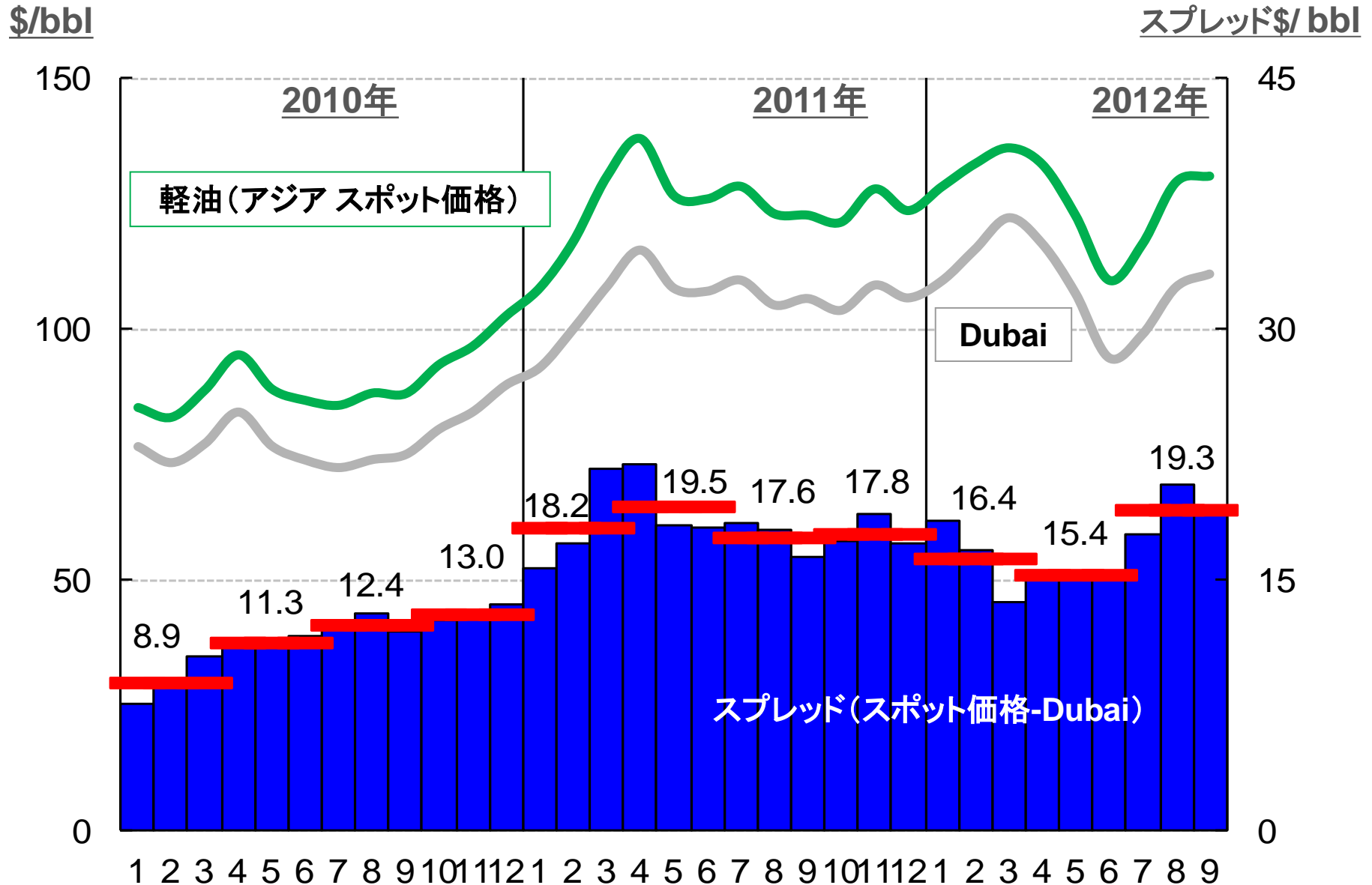
原油・製品価格 ¥/L

スプレッド ¥/L



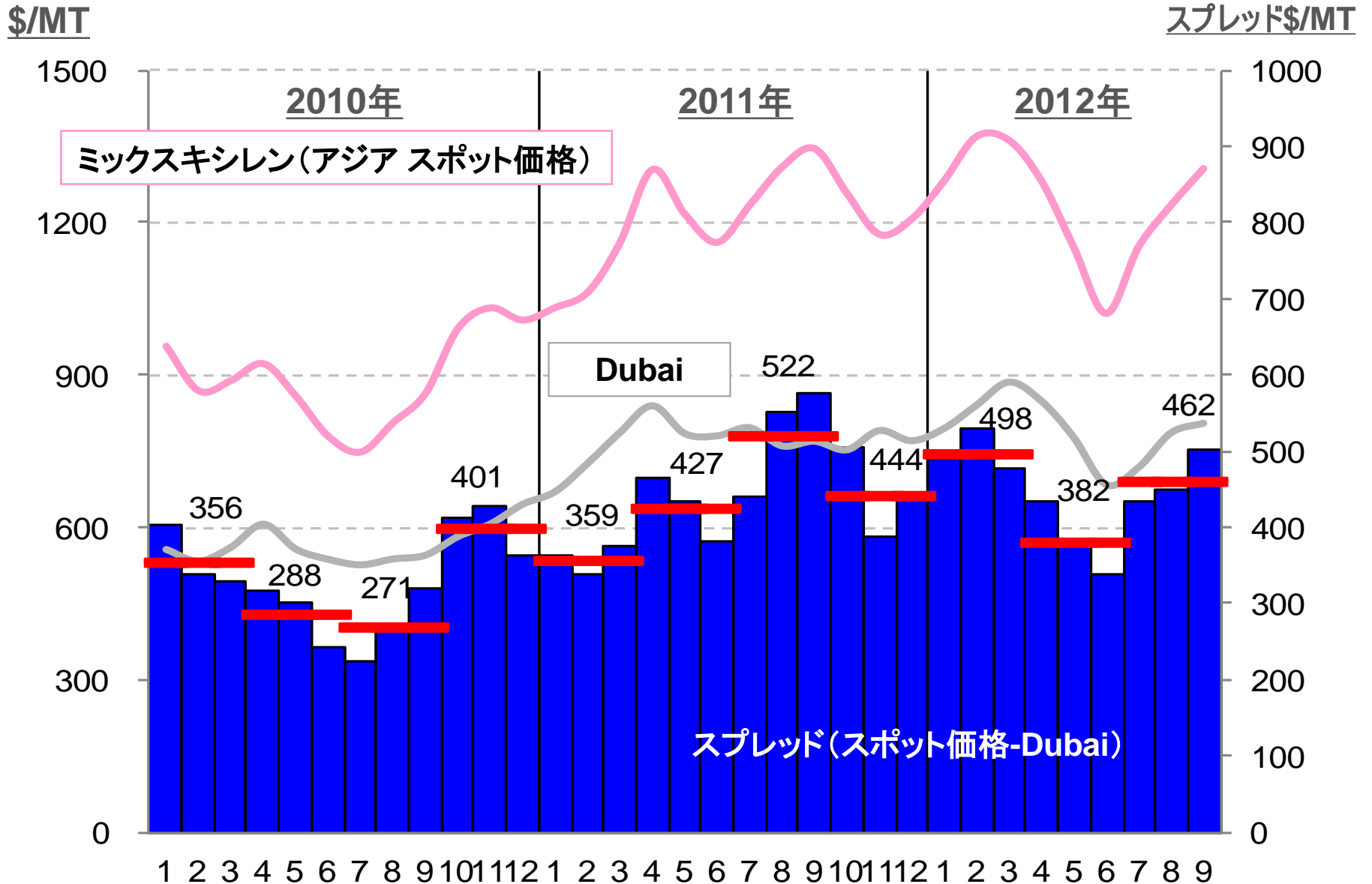
注記) 原油JCC: Japan Crude Cocktail、日本国内に輸入される原油の月間加重平均入着(CIF)価格

海外マーケットの状況①(軽油)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

海外マーケットの状況②(ミックスキシレン)



注記) Dubai: アジア向け中東産原油の基準となっているプラッツ社が発表するドバイ原油スポット価格

平成24年度第3四半期 ートピックスー

ソーラーフロンティア(株)、「小規模発電パック」を発売開始【7月】

「小規模発電パック」は、CIS薄膜太陽電池やパワーコンディショナ、架台等がセットになった、10～50kWの非住宅向けのパッケージ商品です。パッケージ化したことによって、設計や積算の時間が短縮され、設置作業は1ヵ月前後という短期間で完了します。小規模な遊休地を持つ個人や企業を対象に販売を拡大します。

ソーラーフロンティア(株)と矢野産業(株)、発電事業に初参入【9月】

宮崎県東諸県郡国富町に、2カ所、合計約3.3メガワットの大規模太陽光発電所(メガソーラー)を開発することで合意しました。矢野産業が所有する土地に、ソーラーフロンティア製CIS薄膜太陽電池を設置し、各社がそれぞれ1カ所ずつの発電事業者となります。再生可能エネルギーの「固定価格買い取り制度」導入後、両社にとって初めての発電事業への参入となります。

【メガソーラー概要】	国富第1メガソーラー	国富第2メガソーラー
発電事業者	ソーラーフロンティア(株)	矢野産業(株)
総出力(DC)	約2,247kWp	約1,088kWp
使用モジュール枚数	約14,000枚	約7,000枚

「Shell Alexia S4」(シェルアレキシヤ S4)を新発売【9月】



Shell
AlexiaS4

9月中旬より全国に先駆けて京浜地区にて、シェルグループの万能船用シリンダー油「Shell Alexia S4」の出荷を開始しました。「Shell Alexia S4」は、様々な船舶、エンジン機種、燃料油種、エンジン負荷、気候条件での使用が可能で、海域によってシリンダー油を切り替える必要がないことに加え、全く新しい添加剤技術によるエンジン耐久性の向上や、オイル使用量とメンテナンス頻度の減少によってコスト削減を実現することのできる、画期的な商品です。当社は、シェルグループの高い技術力により、経済性と環境配慮に優れた、持続性の高い船用潤滑油ソリューションを提供していきます。

